

2025年8月のてがたんは当日受付にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回9月のてがたんは9月13日(土)で、テーマは「生きるための毒 part2」です。ぜひご参加ください。市民スタッフのみなさま、次回の下見は9月7日(日)です。

8月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼遊歩道→けやき広場→藤棚→鳥の博物館
- 観察日時と天気：2025年8月9日(土) 10:00~12:00 曇り
- 参加人数：16名(大人12名、子ども4名)
- 市民スタッフ：3名(北村章子、小泉伸夫、古澤紀元) ●学芸員実習生：4名
- 鳥博職員：1名(望月みずき)

観察した生き物の記録

下見で見られたものも含む。

【鳥類】カイツブリ科：カイツブリ/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ/タカ科：トビ/カワセミ科：カワセミ/キツツキ科：コゲラ/モズ科：モズ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ツバメ科：ツバメ/ウグイス科：ウグイス/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ 家禽や外来種：ドバト(ハト科)

【昆虫】トンボ目：アジイトトンボ、アオモンイトトンボ、ウチワヤンマ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ、チョウトンボ/バッタ目：ショウリョウバッタ/カメムシ目：クマゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミ、キマダラカメムシ、ナガメ/チョウ目：アオイラガ、ヒロヘリアオイラガ、ヤマトシジミ、アカボシゴマダラ、キタデハ、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、キタキチョウ、モンクロシャチホコ/ハエ目：クロバネツリアブ/コウチュウ目：ヤノナミガタチビタマムシ、クロウリハムシ

【両生爬虫類】ヌマガエル、ニホンカナヘビ、ヒガシニホントカゲ

【クモ類】ジョロウグモ、アシナガグモ、オニグモ、コガネグモ、コガタコガネグモ、ゴミグモ、コクサグモ、カニグモ

【草の花】ラン科：ネジバナ/ツユクサ科：ツユクサ、ヤブミョウガ/カヤツリグサ科：ヤマイ/ブドウ科：ヤブカラシ/アカバナ科：オオバナミズキンバイ、ヒレタゴボウ/マメ科：シロツメクサ/ウリ科：カラスウリ/カタバミ科：カタバミ/ヒユ科：ナガエツルノゲイトウ/ナス科：ワルナスビ/サギゴケ科：サギゴケ/キク科：ノゲシ、ヒメジョオン、ブタナ

【木の花】アジサイ科：アジサイ/マメ科：ギンネム/モクセイ科：トウネズミモチ

【木の実】マメ科：フジ

2025年8月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「拾ってみよう！鳥の羽」でした。多くの鳥たちは繁殖期が終わる夏頃に換羽を始めます。いつものてがたんコースを歩きながら落ちていた羽を探し、ハトやカラス、ハクセキレイなどの羽を拾いました。後半は博物館へ戻り羽図鑑や羽標本を見ながら特徴や見分け方などを解説しました。



今月の案内人
望月みずき・北村章子



①他のトンボを捕食しているウチワヤンマ。



②遊歩道沿いに落ちていたカラス類の風切羽。

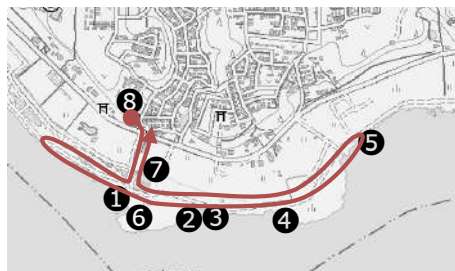


③今年生まれのカナヘビの幼体。



④キマダラカメムシの成虫。

歩いたルートと観察した生き物



⑤雨覆羽を換羽中のムクドリ若鳥。



⑥栈橋近くで見られたカワセミ。



⑦葉の上で休息していたアオスジアゲハ。



⑧博物館の羽標本と拾った羽を比較。

今月の鳥 換羽について

鳥にとって羽は飛ぶためだけでなく、体温を保ち、雨や風から身を守る大切な役割を担っています。しかし羽は使い続けるうちにすり減り、紫外線で傷んでいきます。そのため、鳥は毎年一定の時期に羽を生え替える換羽を行います。夏は、落ちた羽を拾うチャンスです。拾った羽がどの鳥のものか、体のどの部分に生えていたのか観察してみましよう。風切羽と尾羽の識別は、羽軸の湾曲や羽の形に一定のパターンがあるので比較的簡単です。体の羽は部位ごとにさまざまなため、やや慣れが必要です。また、最近「羽根識別マニュアル」や「原寸大写真図鑑羽」といった書籍も充実しているので、参考にしてください。



換羽中のハシボソガラス